

研究・調査報告書

| 報告書番号 | 担当 |
|---|---------------------|
| 8 1 | 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 |
| 題名 (原題/訳) | |
| <p>Interactions of wine drinking with omega-3 fatty acids in patients with coronary heart disease: a fish-like effect of moderate wine drinking. 冠動脈疾患患者におけるワインとオメガ3系脂肪酸摂取の相互作用: 中等量のワインを飲んでいる人では魚を摂取しているのと同等の効果がある</p> | |
| 執筆者 | |
| de Lorgeril M, Salen P, Martin JL, Boucher F, de Leiris J | |
| 掲載誌 (番号又は発行年月日) | |
| Am Heart J. 2008; 155: 175-181. | |
| キーワード | |
| plant omega-3 fatty acid, marine omega-3 fatty acid, wine 植物性オメガ3系脂肪酸、海産物性オメガ3系脂肪酸、ワイン | |
| 要 旨 | |
| <p>目的: 中等量の飲酒している人、海産物のオメガ3系脂肪酸を摂取している人では両方とも冠動脈疾患死亡のリスクが低いとされてきた。しかしワインとオメガ3系脂肪酸の交互作用について検討されたものはないため、今回検討の対象とした。</p> <p>方法: 高αリノレン酸 (以下 ALA、植物系オメガ3系脂肪酸の主たるもの) ダイエットの効果をみる無作為抽出試験に参加した冠動脈疾患患者を対象に、横断研究によりワインと海産オメガ3系脂肪酸の関係を検討した。一日あたりのエタノール摂取量は、エネルギーとして計算され総エネルギーに占める比率の形で示した。食事から摂取した植物性オメガ3系脂肪酸と海産物性オメガ3系脂肪酸は慎重に検討され計算された。</p> <p>結果: まず対象を高 ALA 群と低 ALA 群に分け、それぞれの群において解析を行った。各群とも対象者は習慣的にどのくらい飲酒するかによって層別された。いずれの群においても飲酒量が多いほど血漿中の海産物性オメガ3系脂肪酸値は高くなり、アイコサペンタノイン酸 (EPA) 値は低 ALA 群において 50% ($P<0.005$)、高 ALA 群において 37% ($P<0.05$) まで増加していた。多重線形モデルで食餌性 EPA を含む交絡因子を調整してもワイン中のエタノールと血漿 EPA 値は低 ALA 群 ($P<0.001$) でも高 ALA 群 ($P<0.05$) 群でも有意な関連のままであった。</p> <p>結論: 冠動脈疾患患者においては、非飲酒者に比べ中等量のワイン摂取者では血漿の海産物性オメガ3系脂肪酸値は高かった。より多数の集団で検証されるべきではあるが、ワインを飲むことは海産物を食べるのと同等の効用があり、このことが冠動脈疾患に対するワインの防御効果の理由の一つとなりうるかもしれない。</p> | |